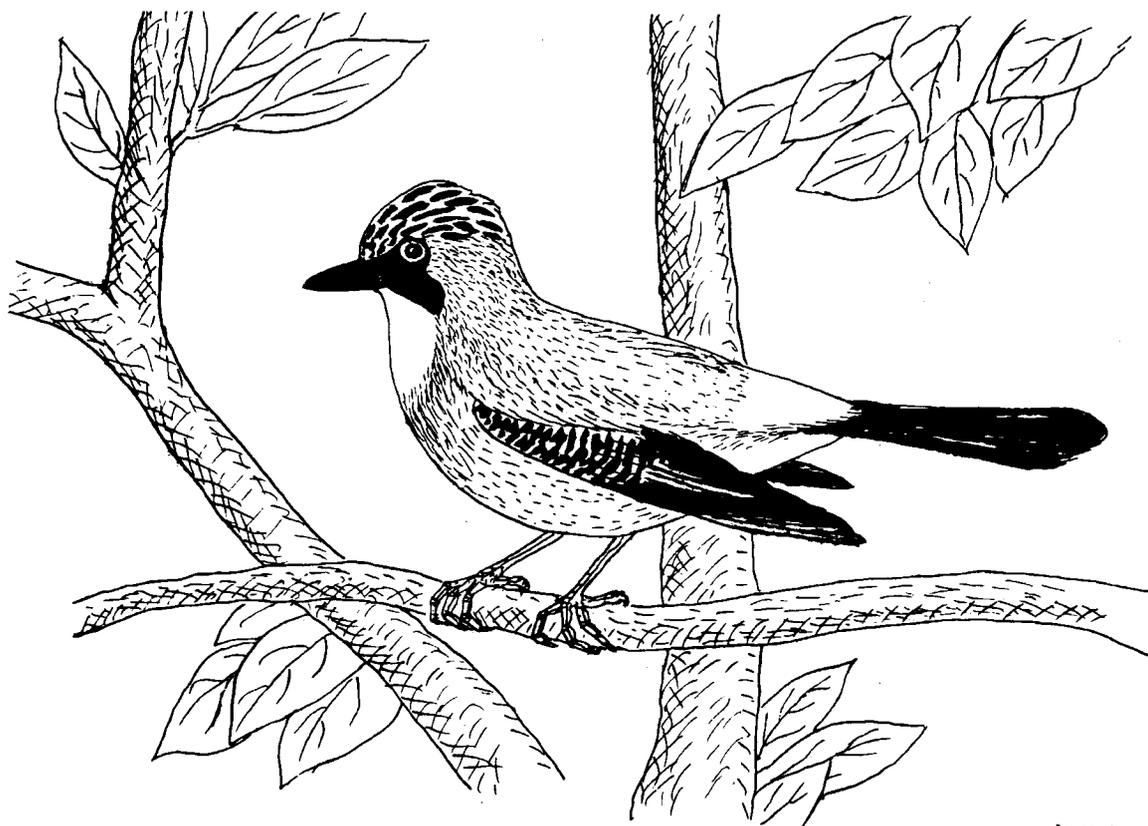


しごき

第17号



1997年5月
(財) 日本野鳥の会三重県支部

目次

今月の表紙 カケス 橋本太郎

財団法人日本野鳥の会三重県支部1997年度総会議事録.....	3
目と耳をすましてごらん.....	6
映画と鳥と.....	6
春の鳥.....	7
探鳥会報告.....	8
シロチドリ繁殖保護速報.....	11
クロハラアジサシー例の観察報告.....	12
1997年春の初認・終認.....	13
私の野鳥情報「春の鳥たち」.....	13
私の探鳥記録.....	13
諫早湾緊急救済アピール.....	14
運営事務局より.....	15

財団法人日本野鳥の会三重県支部 1997年度総会議事録

開催日時 1997年4月20日9時30分より

開催場所 三重県生涯学習センター中研修室

1. 開会
2. 支部長挨拶
3. 議長選出 議長 谷本勢津雄
議事録署名人選出 議事録署名人 坂口 守、西口章一
4. 議事

(1) 1996年度事業(活動)報告承認の件

①編集部 《世古口有司編集部長》

1. 三重県支部報「しろちどり」を4回(5月、8月、11月2月)発行した。
2. 支部報別冊の発行を計画していたが、発行に至らなかった。

②研究部 《木村京子編集部長》

1. 三重県から以下の委託調査を受託し実施した。
「平成8年度鳥獣保護区設定効果調査委託事業」
「平成8年度ガン、カモ類一斉調査事業」
2. シギ・チドリ全国カウント(1996年秋)に参加し、以下の場所を調査・報告した。
鈴鹿川河口～鈴鹿川派川河口、田中川河口、志登茂川～安濃川河口、三雲町の海岸と後背地、
愛宕川・金剛川河口と後背地

③企画部 《橋本祐子企画部長》

1. バードウィーク企画(テグス拾い、密猟パトロール)を実施した。
2. リーダー研修会(6/30 子供と楽しむバードウォッチング研修会)を実施した。
3. 野鳥講座を以下のように実施した。
4/14 「五十鈴川と鳥」講師：杉浦邦彦 三重県支部長
1/26 「志登茂川・安濃川河口の環境と鳥」講師：木村裕之研究部長
4. 木曾崎干拓地に関する企画として、以下の事業を実施した。
愛知県野鳥保護連絡協議会との合同探鳥会(12/22)
「NHK津ぎゃらりー」での写真展(11/26～12/1)
5. 計画していた「親子バードウォッチング」は都合で実施できなかった。
6. 販売等の事業は西村泉に担当していただいた。
7. 看板立てや調査、探鳥会などのシロチドリ保護活動を応援した。
8. 交流会を4/14総会終了後、2/9「バードクラフトを楽しむ会」の2回実施した。
9. 以上の他に、岩田池探鳥会を三重動物学会と合同で開催した。

④保護部 《木村京子事務局長》

1. 今年から県の上野土木事務所は工事の計画を教えてくれるようになった。
2. 水晶川の保護に成功した(自然のまま残されることになった)。
3. 上野新都市の池の保護に成功した(半分埋め立てられていたところを、元に近い状態に復元してもらった)。
4. 名張市が上三谷川の河川工事を近自然工法でやり直した。
5. 田中川河口干潟で底生生物の継続調査を行った。
6. 木曾川下流工事事務所と共にコアジサシの繁殖地造成実験を行い、報告書をまとめた。

⑤事業(活動)概要 《木村京子事務局長》

1996年度に初めて受託した「愛鳥モデル校巡回指導委託事業」での講師派遣や、探鳥会へのリーダー派遣、他の団体への協力、その他支部として関わった活動等について報告があった。

(2) 1996年度決算報告承認の件

- 1996年度の決算について、総会資料「1996年度決算報告」のように榎原財務部長から報告があった。
- 1996年4月1日～1997年3月31日について会計監査を行った結果、正確であったとの報告が西村幹和から行われた。

◎出席者より「探鳥会の保険はどうなっているのか」との質問があった。これに対し、木村京子事務局長から「探鳥会の保険は本部の方で掛けている。会員の会費から支出されていると思われる」という旨の説明があった。

◇(1)(2)の報告については、拍手をもって承認された。

(3) 役員を選任の件

- 下記の役員案が支部長より提出された。

《監事》

世古口有司、高和義

《理事》

北勢：市川雄二、尾畑玲子、木村京子、木村裕之、榎原 葵、藤田克三、村田芳雄、矢田栄史

津：高橋松人、橋本富三、平井正志

松阪：谷本勢津雄、中村洋子、西村四郎

南勢：今村 禎、小坂里香、杉浦邦彦、橋本祐子、林 淳子、西村 泉

伊賀：武田恵世、塗矢博一、前澤昭彦、山中久次

◇上記支部役員案は、拍手をもって承認された。

(4) 1997年度事業計画案承認の件

①編集部 《世古口有司》

支部報「しろちどり」を年4回発行する。

②研究部 《木村京子》

1. ガン・カモ調査を実施する。(1月)

2. 三重県等の委託調査。

3. シギ・チドリ全国カウントに協力する。

③保護部 《武田恵世》

1. 三重県内の保護すべき自然のリストアップを行う。

2. ナショナルトラストに徐々に取り組みでいきたい。

3. 木津川、久米川については、関係行政機関と協議しながら自然を大切にす河川工事を進め、他団体とも協力しながら住民の啓蒙を図っていきたい。

4. 古野川、水晶川については、行政や地元住民と共に、整備、管理方法を協議していきたい。

5. 上野新都市、森林公園内の保護が決まった池については、上野環境保全会議と共に希少生物の保護池として整備していきたい。

6. 名張市上三谷川については、今後適切な近自然工法が行われるよう、名張市と協議していき

たい。

7. 田中川河口については、県や河芸町と協力して保護に努め、継続調査を進めたい。

8. これ以上の伊勢湾埋め立て禁止を目指して、運動を進めたい。

9. コアジサシ繁殖地造成実験を進めていきたい。

10. 木曾崎干拓地のサンクチュアリ化を目指して活動していきたい。

11. 三滝川、宮川、石垣池付近の工事に対し、地元積極的にな会員がいれば協力したい。

④企画部 《橋本祐子》

1. 探鳥会については、総会資料「平成9年度行事予定表」に準じて行いたい。

2. バードウィーク企画として、以下の事業を行いたい。

・テグス拾い探鳥会 5/10 松阪市 5/11 四日市磯津

・NHK津ギャラリーでの写真展「釣り糸、釣り針を捨てないで」5/12～5/18(5/12は搬入)

・密猟パトロールを警察と協力して行いたい。(日時は未定)

3. リーダー研修会を7月に行いたい。

4. 野鳥講座を4月20日(総会終了後)に開講したい。

講師：市川雄二副支部長 テーマ：減少する野鳥たち

5. 事業担当を小坂里香にお願いしたい。

6. その他

◎以上の事業計画案については拍手をもって承認された。

(5) 1997年度予算案承認の件

総会資料「平成9年度予算案」のように予算をたてたい。

◎1997年度予算案は拍手をもって承認された。

5. その他

(1) シロチドリ保護実行委員会からの報告《平井正志》

1996年度のシロチドリ保護活動について報告があった。

(2) 連絡事項

6. 閉会

* 閉会后第1回理事会を開催し、以下の通り互選により役職を決定した。

(支部長) 杉浦邦彦 (副支部長) 高橋松人、市川雄二

(監事) 世古口有司、高 和義

(財務部長) 楢原 葵 (企画部長) 橋本祐子 (保護部長) 平井正志

(編集部長) 谷本勢津雄 (研究部長) 木村裕之 (事務局長) 木村京子

(文中敬称略)

目と耳をすましてごらん

杉浦邦彦

今年の冬は寒暖の差が大きく自然界の生物たちは、そのストレスの対応に大へんなようであった。そこで私が住んでいる伊勢の野帳メモを覗いてみた。

例年、人目につくウメ、サクラ、ツツジ、フジは、2月下旬から開花がはじまり5月初旬にかけて順序よく咲き、新緑の変化があった後は、常緑広葉樹の落葉が5月中旬から6月上旬にかけて発生し梅雨に突入するのが“自然のこよみ”であった。

今年は、1月初旬は暖冬で下旬ごろは厳しい低温(気温 -6°C)が2日ほど続いた。さらに3月中旬から下旬には初夏と思えば、また冬を感じさせる日々が連続した。そんな気温の変化で植物が生育している場所によっては、ウメとサクラが同時に開花し、サクラの満開も樹によってバラバラ、執筆しているのは5月5日であるが、ツツジ、フジは満開となり、例年より半月も早い。常緑樹の落葉はこれも早くも8割方が古い葉をふるい落としている。寒波のために葉が凍傷を起こし葉緑素が壊れて表面が茶褐色に変化しているのでそれとわかる。そんな樹は新芽の発芽が早く、山腹の緑はブロッコリーの形をして赤緑、黄緑、白緑といった多彩な変化をしたキャンパスが目眩しい。落葉樹のケヤキ、モミジは同じ一本の樹でありながら幹から分かれた枝毎に新緑の具合がまちまちであることも不思議である。

さて、野鳥に目を向けてみよう。例年の4月上旬から中旬は冬鳥と夏鳥の交代月で、4月中旬となると鳥相はすっかり変わる年が多い。でも、今年は遅れ気味に低温日が続いたせい或少し違うようであった。

五十鈴川の上流から宇治橋、新橋、浦田橋と五十鈴公園の池の付近の朝と夕方のことであった。3月10日の午後5時頃のこと、オオタカ2羽が山のねぐらへ帰る途中であろう。それを10羽のハクセキレイが警戒の声をそれぞれに発して攻撃をしている姿は戦中の日本軍と米国軍の空中戦を思い出させてしまった。ツバメは3月18日午後5時頃2羽の姿を見せたのは例年通り。ウグイスの1~4羽の縄張り宣言の歌は、まさに人にとっては花にウグイス風情があるが、「もー結構」と聞こえるさまはいささか気の毒にさえ感じる。ピンズイ、アオジは4月3

0日、シロハラは同26日、ツグミは同じく28日に姿を見たのが最後であった。夏鳥は、クロツグミが4月21日、ヒガラが4月23日、キビタキ4月24日、ササゴイ4月28日、センダイムシクイは4月30日、アオバズクは5月5日にそれぞれ確認。(姿と囀鳴)ヒヨドリが北へ帰る大群(150羽)を4月20日に、50羽を4月25日に家(浦田2丁目)の近くで観察。どうしたことか、4月24日に五十鈴川の土手で10羽の群でスズメが繁殖行動をすることもなく集団生活をしていたのには驚かされた。河口部のヨシ群落の消失の影響だろうか。サクラの花密を啄む行動(花を基部からくちばしで切り離し、基部にある密袋をくちばしでしゃぶった後、花を落下させる行動)「文化?」の拡大のせいなのだろうか。その他の原因なのだろうか。スズメの行動については興味あるところをいつまでも観察することができた春から初夏のことであった。

映画と鳥と

西村幹和

大空から一枚の羽が舞い上がり、風に流され車に巻き上げられながらバスを待つ男の足元に舞い降ります。彼はそれをひろいあげカバンの中の絵本にそっとはさみ込みそして話し出すのです「人生はチョコレートの箱……………」

これはアカデミー賞6部門に輝いた「フォレストガンプ」の冒頭シーンですが、この一枚の羽で(たぶん「タカ」?)彼の波乱に満ちた不思議な人生を現しているように思います。

このように映画の中に鳥はいろんな形で出ています。例えば力強さを「タカ」で表現したり、季節を現すのに「鳴き声」を使ったり、「夢」とか「自由」を現すために彼らの一番の特徴である「飛ぶ」ことを度々使っています。又、題名の中にも鳥は出てきます。

先日、懐かしくて久しぶりに借りてきた「アラバマ物語」(この原稿を書ききっかけとなりました)原題は“To kill a Mockingbird”さっそく調べてみる。「モノマネドリ 米国西部及び西インド諸島に多い 他の鳥の鳴き声を巧みにまねる」なるほどこれなら映画のラストがよくわかります。

こんなふうに映画の中のバードウォッチング、なかなか楽しいものですよ。

さて、今夜はどんな出会いがあるのかな……。

春の鳥

坂口 守

笛鳴やまだ寤めやらぬ里の山

早春や小鳥の騒ぐ雑木山

霧はれて嘴びくびくと鶯旋回

鴨帰るいま津軽海峡渡るころ

和まれて池を引く鴨残る鴨

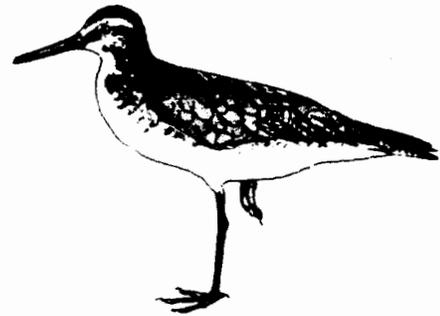
鴨引きて漣ばかり池しじま

造成地荒れ放題や揚雲雀

声に似ず抜き足差し足雉子の去る

古戦場とは知る由もがな囀れる

鴨百羽九十九飛びして波の上



小坂里香

埋められし池半分を鴨見捨て

辛き旅惚げせず浮く小春かな

鳩ひとつつぷりと隠れ葦に風

枯藪につぶやきてあおじ右左

木枯らしや鴉飛びか村踏跟めきぬ

枝白しあるじ無き日の冬埒

頬白に呼ばれて枯れ野振り向きぬ

運転もそぞろに天見る鷹日和

○神路川ラインセンサス (伊勢市今在家町)

- ・日 時：1997年4月12日(土)13:00～13:57 晴
- ・担 当：杉浦邦彦 林 淳子
- ・参加者：32名
- ・観察種：8種

ヒヨドリ4 ルボソガラス1 カササギ7 ドバト2 ヤマガラ5 シジュウカラ2 アジ1 ウグイス1

昔の五十鈴川の環境と違って、すっかり河川の様子が変わった。新緑が美しい、その割に鳥の数、種類が少ない。これから毎月1回のロードセンサス結果がどうなるのか興味がある、ちょっと観察データ取りが高度だったかな。

○亀山水曜探鳥会 (亀山市江ヶ室町)

- ・日 時：1997年4月16日(水)9:20～12:00 晴
- ・担 当：伊藤多紀子 植原 葵
- ・参加者：23名
- ・観察種：30種

カイツブリ 加ウ 加ガモ ルビロガモ ゴイサキ バン コシユイ キン キジバト アオト コゲラ ツバメ セウロクヒ ヒヨドリ モス シロウ ヲグミ イガ シロ 緑シロ カシラガ アジ カササギ 加ササギ 加サ シメ スズメ ムトリ ルボソガラス ルボトガラス

バンの卵が1個巢にある、無事に雛が孵りますように。探鳥会にタヌキを見た、もう少し長く見られれば良かった。さえずりを聞くことができた。

○バードウォッチング入門 (津市偕楽公園)

- ・日 時：1997年4月19日(土)9:30～11:30 晴
- ・担 当：橋本祐子 西浦
- ・参加者：9名
- ・観察種：18+1種

加ウ 加ササギ コシユイ アオト スズメ ヒヨドリ ツバメ ルボトガラス ルボソガラス シジュウカラ ヲグミ キジバト ムトリ コガラ アジ ドバト ヤマガラ シロウ アカウ?

公園の南側の森が伐られ造成されてショックだった。カササギがよく見れて良かった。鳥を見つけるコツが鳴き声に気づくことだと思った。カササギがよく見れて、次回見てもわかると思う。など

○宮川河口探鳥会 (伊勢市大湊町)

- ・日 時：1997年4月24日(木)9:30～11:30 晴
- ・担 当：小坂里香 西村、林、吉居、橋本
- ・参加者：13名
- ・観察種：25種

オウソウシキ 五ウソウシキ ハシキ 夕イナリ タイキ 7種 加ウ カイツブリ ヲグモ コガモ マカモ トビ ルボソガラス コシユイ セウロクヒ ツバメ ムトリ スズメ モス 緑シロ セウロクシロ イナキ (ヒヨドリ、コササギ終了後)

干潟までの距離が遠いのと、強風のため自分の双眼鏡ではよく見えなかったのが残念だったが、シギやチドリが石とよく似た模様で自分では見つけられずフィールドスコープに入れてもらって綺麗に見えた。

○松阪公園探鳥会 (松阪市殿町)

- ・日 時：1997年4月25日(金)9:30～11:30 晴
- 10 しろちどり17号

- ・担 当：中村洋子 宮田たつ
- ・参加者：15名
- ・観察種：15種

スズメ アジ 加ササギ ヒヨドリ ヲグミ ルボソガラス ツバメ キジバト ウグイス アカウ コガラ キジバト ムトリ モス ドバト

家の近くで「ピーンピーン」と鳴く鳥がいて、どんな鳥かなあと考えていたら松阪公園でその声を聞き加ササギだとわかりました。キジバトがいたがすぐ飛んでしまい、じっくりと見られなかった。アカウが綺麗な声でさえずっていた。

○多度峡探鳥会

- ・日 時：1997年4月27日(日)9:30～12:20 晴
- ・担 当：藤田克三
- ・参加者：11名
- ・観察種：19種

林カ キジバト キン コガラ キシユイ ヤマガラ シジュウカラ イガ 加ササギ 加サ ウグイス 林カ ツバメ ヒヨドリ 緑シロ スズメ カサ ルボトガラス 緑シロ

今日は溪流の自然を考えようということで、瑞々しい若葉の中カササギの囀り材木の美しい姿等や植物を観察した。天気も良くハイカーも朝から大勢つめかけていた。

○五十鈴川上流の鳥と自然 (伊勢市五十鈴川)

- ・日 時：1997年4月27日(日)9:30～12:15 晴
- ・担 当：世古口有司
- ・参加者：20名
- ・観察種：23種

加ウ アオト トビ コシユイ キジバト コガラ 加サ ツバメ キシユイ セウロクヒ ヒヨドリ ウグイス 林カ イガ ヤマガラ シジュウカラ 緑シロ 緑シロ 加ササギ スズメ カサ ルボソガラス ルボトガラス

美しい新緑の中で、植物やカエルの声など、鳥だけでなくいろいろ楽しめたのは良かった。川がひどいことになっているのに驚いた。

○夏鳥を探そう探鳥会 (三重県民の森)

- ・日 時：97年4月30日(水)9:30～11:10 曇後雨
- ・担 当：矢田栄史 高 和義
- ・参加者：23名
- ・観察種：15種

ヒヨドリ イガ セウロクシロ コガラ 加ササギ 緑シロ 林カ コシユイ ウグイス 加サ ヤマガラ キジバト 緑シロ ルボソガラス ルボトガラス

朝から天候が心配でしたが、11時頃から本降りになり、予定より早く終了した。テーマは「夏鳥を探そう」。セウロクシロの囀りや材木は遠かったが、朝明川の水辺近くの松の木のとっぺんで艶姿と美声を全員で楽しむことができた。林の中でイガが子育て中らしく虫をくわえる姿を確認、急いで移動した。又、植物ではチゴユリやマムシグサを観察した。

シロチドリ繁殖保護速報

昨年に引き続き、吉崎海岸と豊津浦において三重県支部は繁殖保護活動を実施している。両地区とも4月初めまでに保護柵と看板の設置を終えた。

吉崎海岸では4月10日から観察が開始された。13日以降はシロチドリ成鳥が17羽から21羽観察されており、4月29日からはそれに加えて、30羽前後のコアジサシが観察されている。今年もコアジサシの集団営巣が期待される。自然海岸でのコアジサシの営巣は国内では既に極くまれになっており、今年も営巣するならば吉崎

保護区以外も含め、田中川河口から、津市の志登茂川河口までで観察しているが、現在(5月10日)までに合計15巣が発見された。しかし、現在まで抱卵しているのは4巣6卵、孵化したのはたったの2巣でヒナ4羽だけである。今年の特徴は町屋浦(津市)でごく限られた場所に6巣が発見されたこと、ごく早い時期(4月19日)にヒナが発見されたことである。集団で繁殖とまでは言えないかもしれないが、条件が許せば、かなり、接近して繁殖するであろう。これまでの繁殖成功率は1巣が2羽の親鳥で営まれていることを考えると、はなはだ低いと言わざるを得ない。シロチド



海岸は貴重な自然繁殖地となるであろう。またコアジサシの営巣はシロチドリの繁殖成功率を向上させるものとも考えられる。

豊津浦では4月中旬から支部会員による週末の観察体制を組んでいる。保護柵を設置した保護区では4月13日に3巣が発見されたが、残念ながら19日には消滅していた。原因は今のところ不明である。それ以降巣は発見されていなかったが、5月10日に田中川河口で1巣が発見された。保護区のすぐ南側の海岸では4月13日に1巣が発見された。巣のまわりに合計5枚の看板を立て、巣に近づかないように注意をうながした。周囲に野犬が徘徊していたものの5月6日まで抱卵が確認され、5月10日には2羽のヒナの孵化が確認された。

りの行く末が不安になる。

支部保護部ではさらに多くの会員が保護活動に参加されるよう期待している。シロチドリの巣の発見は難しいとされているが、ポイントを抑えれば案外とわかるものである。シロチドリに素人の会員の参加も歓迎する。素人の方はベテランと組んで、観察に参加していただく予定である。三重県支部ではかなりの会員が発見できるようになっている。初夏の海岸をゆっくりと歩きながらできる最高の活動かもしれない。保護活動に参加希望者は高和義(TEL

)あるいは平井正志

(TEL

)まで

クロハラアジサシ一例の観察報告

多田弘一（嬉野町）

1991年1月より1996年5月まで、最近の5年間に本邦で観察され、本部研究センターに公式記録として登録されたクロハラアジサシ *Sterna hybrida* の記録は23件ある。その半数以上の12件が、1995年に集中しているのは、興味深い現象である。クロハラアジサシは、稀な旅鳥あるいは迷鳥であるので、そのほとんどが1羽の報告である。しかし、1992年2月茨城県の38羽、1995年9月宮崎県の101羽、同年10月熊本県の40羽の観察記録は驚くべきものである。

三重県下においては、榎本健二氏により報告された南牟婁郡御浜町における1995年9月27日より28日の7羽、同年8月22日より27日の1羽、同年9月3日より4日の2羽、同年9月11日の1羽、同年10月4日の3羽は注目すべき記録と考える。

筆者は、1996年11月22日、一志郡香良洲町高砂の養魚池近くの電線にとまり休息する本種1羽を観察し、記録撮影する機会を得た。養魚池の水面上約1メートルを、餌を探しているかの如くフワフワと飛び、Uターンして同じ経路を戻り、再び電線の同箇所にとまった。近くの電柱の頂上にはユリカモメ1羽がとまっていたので、大きさの比較に好都合であった。

クロハラアジサシとハシグロクロハラアジサシの冬羽は大変によく似ているので、その識別には慎重を要する。したがって、念のために本部研究センターと山階鳥類研究所に同定を依頼した。本部研究センター野鳥記録検討会は「目から後頭にかけて小さな縦斑と黒斑が見受けられる事からクロハラアジサシと

思われます」との事であったが、事務的なミスなのか？公式記録にはならなかった。

山階鳥類研究所の同定は「頭上のパターンや腹部に残った黒色の羽毛からクロハラアジサシ成鳥の冬羽と思われまゝ。この写真は非常に鮮明に写っていることもさることながら、電線にとまるクロハラアジサシという滅多にお目にかかれないシーンをとらえた非常に貴重なものと思ひます」との返事を戴き恐縮した。

県下におけるクロハラアジサシとハシグロクロハラアジサシの正式に報告された記録は少ない様であるが、筆者が観察している一志郡三雲町、同郡香良洲町、松阪市の海岸部では、

ハシグロクロハラアジサシよりクロハラアジサシの方が、より稀であると感じている。上記の23件中、11月の観察例は1件のみであり、5月と9月の観察例が最も多い。一方、ハシグロクロハラアジサシの県下の正式な記録はないものと思う。

樋口行雄氏の「三重県の鳥類相（三重県立博物館研究報告自然科学

第1号1979）」、橋本太郎先生の「三重県鳥類の分布と生態1980」以来、それに続く詳細な三重県鳥類目録の発表はない。三重県の自然保護を主張するためにも、学術的進歩のためにも、正確で情報量の多い三重県鳥類目録の発行が待たれる。識別の確実と思われる観察記録は、活字として残す事が非常に大切であり、三重県下の記録は定期的に発行される本誌が最も適していると考え、クロハラアジサシの一観察例を報告した。

最後になりましたが、いつも野鳥観察に対する貴重な御助言を戴く橋本太郎先生に深謝しますと共に、紀南地方に於いて熱心に野鳥を観察され、その貴重な記録を積極的に報告されておられる榎本健二氏に敬意を表し、今後の活躍をご期待申し上げます。



1997年春の初認・終認

(シギ・チドリ類を除く)

多田弘一 (嬉野町)

2月 9日	ウグイス1	初鳴	嬉野町中川
3月13日	アリスイ1	終認	三雲町喜多村新田
3月13日	アメリカヒドリ♂1	終認	香良洲町高砂
3月14日	ヒバリ1	空中初さえずり	三雲町星合
3月17日	チュウヒ1	終認	三雲町曾原
3月19日	ツバメ2	初認	嬉野町算所
3月23日	オオタカ幼鳥1	終認	三雲町五主
3月26日	ジョウビタキ♂1	終認	三雲町曾原
3月27日	アオジ1	初さえずり	嬉野町中川
3月31日	チョウゲンボウ♀1	終認	三雲町星合
3月31日	ウミアイサ5	終認	三雲町星合
3月31日	ミサゴ1	終認	三雲町五主
4月 2日	オオバン2	終認	三雲町五主
4月 8日	マヒワ3	2 終認	嬉野町中川
4月 8日	チュウサギ1	初認	三雲町喜多村新田
4月 9日	ノスリ1	終認	松阪市高須町
4月10日	コチョウゲンボウ♀1	終認	三雲町曾原
4月10日	シロハラ1	終認	三雲町五主
4月10日	ノスリ(頭部白化)1	終認	三雲町曾原
4月11日	カンムリカイツブリ1	終認	三雲町小野江
4月13日	クイナ1	終認	三雲町曾原
4月17日	アオジ夏羽1	終認	嬉野町中川
4月20日	アカハラ1	終認	嬉野町中川
4月21日	アマサギ4	初認	三雲町中道
4月24日	オオヨシキリ2	初鳴	三雲町五主
4月24日	タヒバリ夏羽2	終認	松阪市高須町

私の野鳥情報 「春の鳥たち」

矢田栄史 (三重郡菟野町)

初認

3月18日	ツバメ	菟野町三滝川
4月21日	オオルリ	菟野町泉民の森
4月21日	センドイシイ	"

4月21日は泉民の森駐車場付近でオオルリ、カワラヒワ、ピンズイが囀り、いい一時でした。

4月26日快晴の一日、家族で木曾三川公園へ、長良川の葦原でオオヨシキリの声(初認)すぐ近くまで寄ったのですが姿は確認できず、又、園内ではアゲハチョウや種類はわかりませんがトンボも今年初めて見ました。帰りに多度峠を少し歩きましたが、午後遅かったせいかな静かでした。

秋から冬にかけて、自宅の庭にブロックを置きパンくず等を蒔いたらスズメが来ていました。

4月4日車庫で交尾を確認、その後巣造り、4月29日初めて雛の声に気づきました。家の近くでも4ヶ所位からスズメの雛の音がしています。いっとうやって巣立つか楽しみです。

私の探鳥記録

一志郡 久住勝司

97年

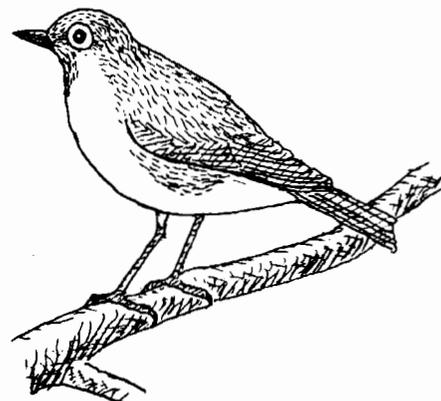
1.12	ウミアイサ(45)	雲出川古川河口
1.15	アメリカヒドリ(2)	"
1.19	オシドリ(13)	君ヶ野ダム
2. 2	ミコアイサ(10)	奈良、水上池
	オシドリ(7)	"
2.22	ミヤコドリ(3)	安濃川河口
	ヒレンジャク(1)	嬉野町黒田
2.28	アトリ(26)	嬉野町川原木造
3. 2	シメ(1)	三雲町カヌー公園
	ミヤマホオジロ(7)	嬉野町矢下
	チョウゲンボウ(1)	嬉野町川北
3. 9	イソヒヨドリ(1)	鳥羽湾
3.22	ミヤコドリ(2)	三雲町五主海岸
3.23	イカル(16)	奈良県宇田町音羽山
3.30	マヒワ(10)	三雲町カヌー公園
4. 6	コムクドリ(5)	"
4.12	ムネアカタヒバリ(1)	嬉野町中村川
4.13	コジュケイ(1)	観音岳
	キジ(1)	"
	ヤマガラ(1)	"
4.19	サシバ(2)初認	藤原岳
	オオルリ(1)初認	"
	ゴジュウカラ(1)	"

志摩町にて

吉田義男

4月21日

ムナグロ 8羽 志摩郡磯部町下の郷の水田



諫早湾緊急救済アピール

(ご協力のお願い)

日本野鳥の会三重県支部

報道などご存じのとおり、長崎県諫早湾において、4月14日、干拓のための潮受堤防の締め切りが農林水産省の手で強行されました。諫早湾は日本で最大規模の干潟であり、野鳥の生息地として国際的にも重要な場所です。

今回の締め切りは、多くの議論が進行している中での強行であり、多くの自然保護団体や世論の反発を招いています。こうした声を受けて、「諫早干潟緊急救済本部」及び同東京事務所が自然保護団体間の協力体制で立ち上がり、水門の開放と干潟の生態系の救済を目指して緊急活動を始めました。

諫早湾の干拓予定地に生息している生物は、ムツゴロウのほか、魚類200種以上、エビ類40種以上、カニ類90種以上、タコ類3種以上、塩性植物シチメンソウの日本一の大群落、ケイソウ類多数、そして鳥類232種以上です。この世界的にも貴重で豊かな干潟が今まさに消えようとしています。潮止めにより絶滅するであろう野生生物は20種を越えると言われていています。

しかし、時間が少しだけあります。干潟の生き物が全滅してしまうまでに、締め切ってから50日以上はかかると言われています。その間に潮受堤防にある2つの水門を開ければ、干潟の生き物はある程度生き残れます。この水門から出入りする潮は、干潟の8割ぐらゐを支えられるとのことですが、農水省が堤防を締める理由は主に「治水」です。しかし、高潮などの災害が起きる可能性がない限り、この水門を開けていてはいけないという理由は全くありません。水門の開閉作業はたった6分ですむのですから。

これからも諫早湾干拓事業の見直しは要求され続けるでしょう。でも、生き物が死んでしまってから見直しをしても、非常に悲しい結果が待っているだけです。

とにかく時間がありません。水門を開けるよう、今すぐ行動を起こしましょう。

【ご協力いただきたいこと】

抗議FAX=決定権や影響力をもつ首長にできるだけ多くの抗議文を！！

吉次邦夫諫早市長FAX0957-27-0111

高田勇長崎県知事FAX0958-28-7665

藤本孝雄農林水産大臣FAX-03-3501-5126

橋本龍太郎総理大臣FAX03-3581-3883 (総理への提案FAX)

◇FAXの写しの送り先(文面をお知らせいただければ幸いです)

諫早干潟救済本部FAX0957-23-3740, 〒854長崎県諫早市小野町1100-16

寄付をお腰いします:運動は各自の自腹で展開しており、継続のためご支援を！！

銀行口座=十八銀行東諫早支店普通030271

名義人:諫早干潟緊急救済本部山下弘文

(イサハヤヒガタキンキユウキユウサイホンブ ヤマシタ ヒロフミ)

運営事務局より

☆火曜日13:00～15:00頃まで、三重県支部事務所で文書整理や発送などの作業をしています。開心のある方、手伝える方、のぞきに来てください。ただし、学校の長期休暇（春休み、夏休み、冬休み）はお休みです。また、木村の都合でお休みになったり、日時を変更する場合がありますので、来ていただく場合はあらかじめ本村にご連絡ください。

事務所の位置は下図のとおりです。



☆1997年度三重県支部総会において新役員が承認され、若干若返って新しい体制がスタートしました。役員一同、責任をもって支部の運営にあたっていきますが、会員の皆様のご協力やご参加なしには三重県支部は成り立ちません。どうかご協力をよろしくお願い申し上げます。

☆総会の出欠ハガキでご意見・ご提案などをいただきありがとうございました。今後の支部運営の参考にさせていただくつもりです。その中で、次のことについてこの紙面を借りてお返事いたします。

◇探鳥会出席者から100円程度の会費を徴収して、保険料または協力費として有効活用してはどうか。

A探鳥会参加者の保険については、本部でかけておりますのでご安心ください。また、探鳥会を開催するにあたって、配布資料を準備した場合は500円以下の参加費をいただけることになっています（宿泊費等は別）。参加費の必要な探鳥会が企画された場合にはご協力ください。

◇会員相互の連絡、支部活動の援助のため、支部会員名簿を発行してはどうか。

A現在、会員名簿は本部に依頼して送ってもらい、運営事務局・本村が責任をもって管理しています。以前から支部の名簿がほしいとの声はときどき伺っておりますが、三重県支部理事会において話し合い、管理上三重県支部の名簿は配布しないことになっています。理由は、名簿の外部への流出を防いで個人情報を守り、三重県支部の方々にご迷惑をおかけしないためです。名簿が手元にあると大変便利なことは十分承知しておりますし、支部の活動がより活発になることもわかります。今後、絶対発行されないというものではありませんが、今のところは上記の理由で発行を考えておりません。住所や電話番号の分からない会員さんに連絡をお取りになりたい場合は、お手数ですが運営事務局・木村（ ）か、相手の方のお住まいの地区代表にお尋ねください。

◆2月の毎日新聞の「125の提案」にも出ていましたが、「われ唯足るを知る（吾唯足知）」というこの言葉を、私たちは今しっかり受けとめなければならないと思います。「もっと便利に」「もっと快適に」「もっと豊かに」と、私たちは自然や環境を犠牲にして、果てしない欲望を満足させようとしています。地球の美しい自然や資源は無限ではありません。今までの人間の行為が、大気・水質汚染、オゾン層破壊、砂漠化、異常気象、酸性雨、地球温暖化などをもたらしているのは、周知の事実です。この「もっと1を果てしなく続けていけばどうなるか……。すでに現実のものとして追ってきています。

（木村京子）

「シロチドリ」の原稿大募集！！

◎次号（18号 97年8月発行）の特集は「ツバメ」です。

ツバメにまつわる話なら何でもOK！ 例えば…

あなたの街でツバメの巣の多いのはどんな環境？

面白いツバメの生態、ツバメ今昔

◎「夏鳥が減った？」と言われていますが、あなたのフィールドではいかがですか？

◎支部への要望、鳥、自然について日頃思うこと…

お手紙に書いて、たくさんお送り下さい。

◎18号の原稿締め切りは7月31日です。

編集部一同待っています。

◎原稿の送り方

(1)郵送	:	谷本勢津雄 宛
(2)FAX	:	谷本勢津雄 宛
(3)電子メール	:	吉居 瑞穂 宛

編集後記

初めての編集に四苦八苦、何とか造り上げたら既に6月になっていました。次はもっと早く仕事をし、期日までに発行したいと思っています。◆探鳥地マップは次号までお待ち下さい。◆大台ヶ原へ調査に行く途中、メジロの密猟者を発見、おとり、捕獲されたメジロ合計12羽を放鳥しました。鳥獣保護区内で繁殖期の密猟には憤りを通り越して密猟者のもっている道具、器具類を全てたたき壊してやろうかと思いましたが、前回没収して警察にしかられたこともあり、我慢して放鳥だけで済ませました。◆イソヒヨドリがおかしい、大台町の自動車修理工場で繁殖情報を聞いたすぐ後で、松阪市の某大手スーパーの駐車場で繁殖情報を当会会員の金子さんから聞きました。次の日行ってみると3羽の雛のうち2羽は既に巣立ってしまい、1羽だけが残っていました。そこへ牡が飛んできて一生懸命巣立ちをうながします。30分ほど後に雛は隣家の庭の物干し竿までの短い巣立ち飛行を決行。元気で育ってくれと思いながら帰りました。貴重な体験ができましたが、イソヒヨドリが海岸部で繁殖できなくなって都市部に進入している理由を考えるとあまり喜んではいけないのではと思います。

カット

鹿島素子 橋本太郎

しろちどり第17号

1997年5月発行

表紙絵 橋本太郎 題字 濱田 稔

編集 谷本勢津雄

TEL

発行者 財団法人日本野鳥の会三重県支部

〒516 伊勢市宇治浦田2丁目9-4 杉浦邦彦方

TEL

印刷 館 印刷 〒510-13 三重郡菟野町田口1903-3